

各駅の神戸歴史ウォーク(10)

新長田駅

駒ケ林と長田

田辺真人



長田を初めて駅の名に使ったのは山陽電鉄である。

明治40年に兵庫の町から須磨寺と寺の東の池の一带にあった行楽地を結ぶために開業した電車は、兵庫電気軌道といい、兵電と略されていた。兵電は大正6年には明石まで路線を伸ばした。一方、明石から姫路までは神戸姫路電気鉄道が、大正12年に営業を開始した。この両社とともに、昭和2年に配電会社だった宇治川電気に吸収されて同社の電鉄部となり、宇治電と称された。この宇治電が昭和8年に本社から分離して、山陽電気鉄道となり現在に至っている。

山陽電鉄に次いで、長田を駅名に使ったのは神戸電鉄である。その前身・神戸有馬電気鉄道いわゆる神戸電車が昭和3年11月に湊川・有馬間、翌月に有馬口・三田間の路線を完成して、長田駅を開業した。一方、昭和13年に鈴蘭台・三木間で開業したのが三木電気鉄道で両社は、昭和22年に合併して神戸三木電気鉄道となり、昭和24年に神戸電気鉄道現在の名に改めた。太平洋戦争後に当時の国鉄が駅を長田区内に新設した時、すでに二つの長田駅があったために、こちらは「新長

田」と命名されたのであろう。

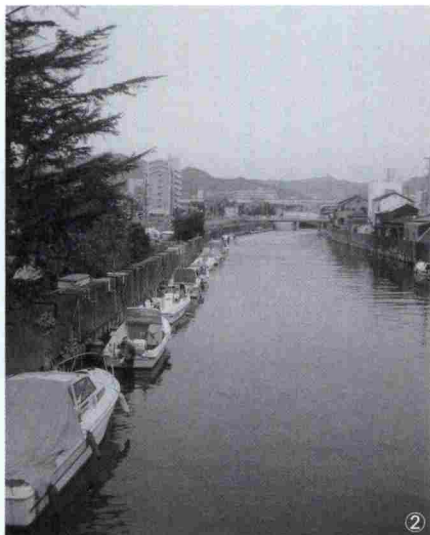
ところで、長田は神戸で最も古い地名の一つで、『日本書紀』にその名が記されている。同所では、九州から浪速の津(大阪)に帰る途中、神功皇后の船が大阪湾の海上でぐるぐる回って進まなくなったため、武庫の泊(西宮)に船を着けて占いをしたという。この時、三柱の神が現れて、それぞれ願う所に祀られれば、順風と安全な航海を皇后に約束した。事代主命が長田の国に、天照大神が広田の国に、稚日女尊が活田の国に祀られることを望まれた。そこで皇后が祀ったのが、現在の長田神社と生田神社と西宮市の広田神社で、こうして皇后の船は無事浪花に帰着できたという。稲作が普及した弥生時代に河川の流域毎に農耕社会が形成され、勢力を競うようになった。そのような日本を中国の歴史書『漢書』や『魏志』は「分かれ百余国」と書いている。神戸でも山地から流れ出す河川毎に、そのようなクニができた。

このようなクニを統合して大和政権が国土統一を進め、7世紀後半には中央集権的な国造りを進めて、8世紀に初めて律令が完成された。律令制では全国は国、郡、里(郷)に分けられ、この辺りには摂津国八部郡長田里が置かれた。平地の少ない須磨にはあまり農耕社会が発展せず、長田里に含まれていた。須磨の西端須磨浦公園の一ノ谷に長田神社のお旅所の碑があって、長田神社の祭礼では今もここまで神輿が巡行させられるのは、古代に須磨が長田に含まれていたころの名残なのである。

刈藻川が山間から平地に流れ出した所に発展してきた農耕社会の長田に対して、平安時代には海辺で漁撈をわざとする駒ケ林の集落も成長し始めた。寿永3年(1184)2月7日の源平合戦で東の生田の森を守っていた平家の副将・平重衡が負け戦の末に西方に敗走する。三宮から須磨方面への彼の騎行を『平家物語』は、「湊河、刈藻川をも打ち渡り、蓮の池をば馬手(右手)に見て駒の林を弓手(左手)になし板宿・須



① 長田神社
② 苅藻川
③ 腕塚



「ヘレニズム文化を語る」(仮)

12月14日(日) 14:00
会場…兵庫県立美術館ミュージアムホール
参加料…無料(展覧会のチケットを提示)
募集人数…250名
主催…兵庫県立美術館
お問い合わせ…078-262-0901

磨をも打ち過ぎて西を指いてぞ落ち給ふ」と描いている。旧湊川つまり新開地本通から苅藻川つまり新湊川を渡って中央幹線道路を西に進むと、右手に奈良時代からの溜め池・蓮池、今の市民グラウンドや蓮池小学校がある。左手に駒ヶ林を眺め、板宿の南の太田町の交差点を過ぎ須磨方面に走ったわけで、現在のランドマークや地名にびったり当てはまる。山陽鉄鉄須磨寺駅北側には源氏の追手による「平重衛捕らわれの跡」の碑もある。

JR新長田駅は、実はこの駒ヶ林の旧村域にある。古代に山手の長田と浜辺の駒ヶ林の二集落ができていたこの地域に、中世には苅藻川下流の真野池(川尻近くの池だったので尻池とも呼ぶ)の岸に東西の尻池村ができ、川の西方には西代村が成立した。蓮池の岸の農村・池田村や駒ヶ林の西の野田村も形成された。江戸時代の農村生活はこのような農村が基盤であった。

近代的な市町村制が確立された明治22年、このような村々が合流して一行制村を作った時、歴史のある大きな長田と駒ヶ林の両村が譲らず、新村名は両村から一字づつ探って「林田村」とされた。やがて同村は神戸市に合併し、明治以降は駒ヶ林の地名は徐々にロイヤルなものと考えられるようになった。昭和6年に神戸市内に区制が実施された時、林田村域の区分を長田区としても大きな抵抗はなかった。こうして、長田区内の旧駒ヶ林に戦後駅が新設された時も、すんなり長田が採用された。駒ヶ林は歴史的な地名だと考えている私としては、地下鉄海岸線に駒ヶ林の名が復活したことを内心喜んでるわけである。



たなべ まさと
1947年、神戸生まれ。兵庫高校・関西学院大学文学部卒業。現在、園田学園女子大学国際文化学部教授。地域史研究で神戸市文化奨励賞、神戸市文化活動功労賞を受賞。また、ニュージーランド学会副会長や宝塚市教育委員をもつとめる。「神戸の伝説」・「神戸の100年」・「ニュージーランドの風土と生活」など著書・監修多数。

奇人・司馬江漢に私淑 オランダ趣味の「隠し落カン」

中右 瑛

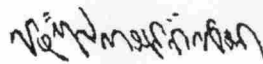
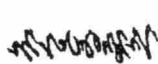
北斎センセイのオランダ趣味をご紹介しよう。
ミミスが這い蹲ったような文字。センセイが
自分の風景画の一隅に書き添えたオランダ文字
なのだが、ハテ？読者諸氏はナント？解読され
るであろうか。

だが、よく見るとオランダ文字ではなさそう
である。なを詳細に見ると、「ほくさるゑがく
くだんう志がふち」と、平仮名で書かれてい
るではないか。オランダ文字に見せかけたセン
セイの署名だったのである。

洒脱な発想の「隠し落カン」？センセイのオ
ランダ趣味が知られる珍しい例なのである。
北斎センセイのオランダ趣味は、アノ奇人中
の奇人で江戸随一の蘭癖家を自認する風来山人
こと、平賀源内センセイからの系譜だ。

源内センセイは博識多能の文化人で、新しもの喰い。
特にオランダ渡りの珍奇物にご執心。家財道具一切を
売り払ってでも、好きなものを買ひ蒐めるオランダ渡
りのゲテもの蒐集家。日本で初めて油絵を描いた？と
も伝えられ、洋画の開拓先駆者という。科学にも万能
で、エレキテル（電気）の発明？者でもある。一方、
悪評高し。酒色に溺れ、大言をなし、発狂して人を殺
したとも…。加えて極度の男色趣味などが、源内セン
セイの悪名を一層高めているようである。

その変り者の源内センセイに私淑したのが、コレま
た奇人変人の司馬江漢大センセイだった。西洋カブレ



(北斎のサイン)



でも奇人ぶりでも、源内センセイにはヒケをとらない
ほどの強輩で、パリで大流行のメガネ絵に使った舶来
銅版画をヒントに天明三年（一七八三）、日本で初め
てメガネ絵に使う銅版画を創製したほどである。
この江漢大センセイの銅版画を見て、感涙したのが
北斎センセイ。いままでの浮世絵にはみられなかった、
リアルでボリュームのある力強い広がりをもせる風景
描写。遠近法、陰影法を駆使した立体画法に驚嘆した
のだ。

「ひとつ、我輩も挑戦してやろう！」

葛飾北斎画「くだんう志がふち」山ヒダ、
人物に影が画かれている
(左上部にオランダ文字？が見える)



司馬江漢画「三田之景」(銅版画) 覗きメガネ絵 左右が逆に画かれている

センセイは木版画でもって、銅版画まがいの風景画を試作したのである。センセイは勝川派を破門されて以来、さまざまな流派に学んだ。狩野派や大和絵、漢画、ついには西洋画法に挑んだのだ。

光と陰、強烈なデフォルメによる造型、特異な遠近構図。額ブチを書き加えたり、色彩を渋くしたりして洋画感覚を高めた。それが「ほくさゝゐゑがく」オランダごのみの洋風画なのである。

この期、さまざまなこの種の風景画を多く発表。小判「近江八景」の袋には「北斎画・銅板」とある。北斎は木版画であるのに、わざわざ「銅板」と記し、銅

版画に見せかけている。負けずぎらいの北斎が江漢銅版画に挑戦したのである。

ときあたかも寛政一文化期(一七八七―一八一七)は、オランダ趣味ブーム。北斎センセイは三十代―四十代の最も油の乗り切ったときだった。

余談だが、北斎センセイと江漢センセイとの共通点、それは、世にも稀有な奇人であったということだ。

画界にすばらしい業績を残した江漢だが、その奇行、変人ぶりは目に余るほどである。虚言癖の大家ともいわれ、人を騙した例は山ほどある。

年令をゴマカしたこと。死んでもいないのに「死亡通知」を出して人を驚かしたことなどである。

当時六十七歳だったのだが、九歳もサバを読んで「七十翁」と署して、「死亡通知」を出した。江漢の年令が以後、ややこしく混乱するのである。

もう一つ、悪名を轟かした奇矯がある。

江漢、若かりし頃、高名な浮世絵師・鈴木春信の名をかたり、春信のニセ絵を描いた。いま春信には多量の美人画が残されているが、その中には江漢のニセモノが多数含まれている。

江漢センセイは、虚言癖を、洒落、単なるいたずらとして楽しんだのだ。北斎センセイに負けず劣らず奇人ぶりである。

江漢は文政元年(一八一八)十月二十一日、孤独のうち死んだ。九歳もサバを読んだので八十一歳と伝えられたが、実際は七十二歳だった。

北斎センセイのオランダ趣味は、後年のアノ一世一代の傑作『富嶽三十六景』シリーズの風景画に大いなる礎石となっているのである。

■中右 瑛(なかう・えい)

抽象画家。浮世絵・夢エッセイスト。一九三四年生まれ、神戸市在住。行動美術展において奨励賞、新人賞、会友賞、行動美術賞受賞。浮世絵内山賞受賞。半どん現代美術賞、兵庫県文化賞、神戸市文化賞など受賞。現在、行動美術協会会員、国際浮世絵学会常任理事。著書多数

■みだら夜話／第十一回

CMソング

あさき まだら

浅黄斑〈作家〉

絵・犬童 徹

いんどう とおる

BSジャパンとテレビ大阪に「女と愛とミス터리」という二時間ドラマ枠がありまして、今年
は小生の原作が二本、放映されました。ひとつは
榎木孝明主演の「富士六湖殺人水脈」で、もうひ
とつは富田靖子主演の「死蜚」です。前者のほう
には「警部補の事件簿」と副タイトルがついて
まして、この稿を書いている現在、シリーズ第二
作のロケが、いよいよ終盤を迎えている頃です。
原作では「金沢・八丈殺人水脈」だったんですが、
目出昌伸監督の希望で、テレビドラマでのタイト
ルは「八丈・金沢殺人水脈」と地名がひっくり返
りました。ドラマ冒頭のシーンに八丈空港を飛び
立つジェット機を配し、そこにタイトルをかぶせ
る、という単純な理由のようです。実に明快です
ね。

こういったロケに、原作者も顔を出さねばなら
ない、といった決まりはないんですが、小生はけっ
こうミーハーなところがありますので、しっかり
横浜ロケにつきあってきました。警部補の上司



役は河原崎健三で、この間亡くなられた河原崎長
一郎さんの弟さんです。長一郎の奥様で女優でも
ある伊藤栄子さんが、この夏だったか神戸に來ら
れて、一緒に食事をする機会がありましたので、
健三さんには、ぜひお会いしてお悔やみを申し上
げたかったです。一足遅いでご挨拶できなかつ
たのが残念です。榎木さんは、震災復興関連のイ
ベントで十一月末に森村誠一さんと一緒に神戸
に來られるとか、神戸での再会を楽しみにしてい
ます。

とまあ、なんだかCMみたいなことを長々書い
てしまいましたが、ここでひとつクイズです。さ
て日本初のテレビドラマの放送は、いったいいつ
だったでしょう。答えは、昭和十五年です、と書
けば、ええっ、とたぶん目を丸くされるでしょう。
でも誤植ではありません。この話をする、たい
がいびっくりされるんですが、本当のことです。
我が国でテレビ放送が始まったのが昭和二十八年
のことですから、驚かれても無理はありません。

ちなみに、テレビドラマという言葉は日本で創られた言葉で、英語ではテレビプレー、もしくはTVムービーというのが正しいのです。

それはともかく、日本最初のテレビドラマは伊藤藤鶴平原作の「夕餉前」で、昭和十五年五月に、東京の砦にあったNHK技術研究所の仮スタジオから実験放送のひとつとして放送され、千代田区内幸町の放送会館まで映像が無事に届いたそうだと、ここまで書いてきて、ふと小生は考えました。テレビといえはCM、CMといえはCMソング。さて、じゃあ、日本初のCMソングはなんだろう。というふうには、いつもながら脱線がはじまってしまったのです。ちなみに、このCMという言葉、通常はコマーションと呼んでいます、正しくはコマーション・メッセージの略なんですよ。

百科事典を引けば、たちどころに我が国のCMソング第一号は、民間ラジオ放送が始まった昭和二十六年に、三木鶏郎作詞作曲の「僕はアマチュアカメラマン」だったと分かります。小西六写真工業ですね。テレビだと「ワワワ、ワガみつ」のミツワ石けんや「明るいナショナル」の松下電器あたりでしょう。でも、もひとつ小生には納得ができない。というのも、たとえば幼少のみぎり記憶だけ「ロバのパン屋がトンコロリ」なんてやってきた、パン屋さん。あれだって、立派なCMソングで、もっと昔からあったような気がする。それに、なにかの本で読んだ記憶があるんだけれど、明治時代には「オイチニの菓屋」なんて歌がはやったそうだし、タバコとか、百貨店だとか、宣伝隊や音楽隊を繰り出していたそうだから、

ら、当然、いろんなCMソングがあったはずだ。と、こうなるといけません。どんどん調べなければ気がすまないのが、小生の悪癖です。正直言って、今回はとても手こずりました。こういった日本初物を調べるには、石井研堂という人の「明治事物起源」という文献が役立つのですが、さすがにどこをどう探しても、CMソングというのは見つかりません。分かったことといえば、明治十八年に東京の広告広目屋が市中音楽隊というのを結成したが、注文は絶無だったらしい。これきつと、チンドン屋ですね。ところが日清戦争があって、ヤレ出征、ヤレ祝勝と市中音楽隊が、にわかには脚光を浴びたということくらい。でもあきらめないのが小生なのです。

二日ほど、あれこれ資料をあさった甲斐あって、ついに判明いたしました。発表いたします。

明治三十一年、広告主はライオン歯磨。曲は「元寇」という歌そのままの替え歌で、「数百余種にごさる。従来出来の品。各人ここに見る。効験みえんまずいこと」といったような歌詞を、社長を陣頭に六人編成の音楽隊で、全国ツアーをおこなったそう。

ちなみに、小生原作のテレビドラマは来年三月に放送予定です。



■浅黄斑（あさぎ、またた） 推理作家。一九四六年神戸市生まれ。西神ニュータウンに在住。一九九二年小説推理新人賞。一九九五年日本文芸家クラブ大賞を受賞。日本文芸家協会、日本推理作家協会などに所属することにも。日本文芸家クラブ関西支部長。「きょうも風さえ吹きます」。「ちよんがれ西鶴」「走る死体」「神戸・真夏の雪祭り殺人事件」など著書多数。

ネギ

出石 アカル

絵・菅原 洗人

兵庫県にドーム球場があるのをご存じだろうか。多目的ではあるが、開閉式の立派なドームである。観覧席へ行くためのエレベーターも設置されている。神鍋山のふもと、日高町にある但馬ドーム球場。

常連さんに、もう何十年もアマチュア野球の審判をしている人がある。円山さん、74歳。

声が凄い。浪花節と審判とで鍛えた恐持て声である。背は低いが、歩く姿は後ろから支えがいろいろある。金離れもよくて、要するに親分肌。



この人がそのドーム球場へ行くというのを聞いた。わたしと家内も丁度その日に但馬の出石へ行く用事があったので、陣中見舞いをしないわけにはゆかない。

円山さん、今はもう県の組織の重鎮で、審判に立つことはないのだが、大きな大会があると出掛けて行く。そこへ尋ねて行ったのだ。

バックネット裏の本部席に入って行くと、やはりこの人、ど真ん中の席にドッカと座って辺りを睥睨している。わたしと家内が入ってゆくと大層

喜んでくれて、辺りの役員さんに鼻高々である。自分の知り合いが遠い所まで陣中見舞いに来てくれたというのが、この人にとっては、大きなステータスになるのだ。

わたしの店に入ってくる時の態度もまるでどこかの親分である。ゆっくりとドアを開けて入って来て、そこで一旦胸を反らして立ち止まる。「俺が来たぞ」という姿である。

この人の現役時代のエピソードが面白い。

「球審しとって、きわどい球を『ボール!』ゆうたら、キャッチャーが不満そうに俺の顔を振り返りよることがある。そんな時、俺はそいつの頭つかんでグイッと前向かせたるんや」

プロ野球の審判に聞かせてやりたい話だ。

「Nと言うチームの一番バッター、こいつが生意気な奴で、いつも自分のチームの者に偉そうにゆうとる。その日の第一打席や。外角のきわどい球を、ストライクアウト!ゆうて三振にしたんや。そしたらそいつ、次のバッターとすれ違う時、『今日の審判まだ眠っとる』て言いよった。いつも偉そうにゆうとるもんやから照れ隠しや。俺、聞こえとったけど、その二番バッターに『今あいつ何ゆうた?』て尋ねたら、『いいえ、別に』て庇いよる。俺、ベンチまで行って、『今何ゆうたんや?』て聞いたけど答えよらへん。そやから、『たしかに、審判眠っとるゆうたな。それ覚えとくぞ』ゆうて試合進めた。次にそいつの打順が来たとき、どんな球でもみんなストライクゆうて三振にしてやった。その次には相手のピッチャーも

分かって来てストライク放りよらへん。監督が抗議して来よったから、『あいつがバッターボックスに入ったら、俺、眠となるんや。みんなストライクに見えるんや。今日だけと違うぞ、これからずっとや』てゆうてやった」

こんな調子で何十年、この町の野球界に君臨してきた人である。

ところがこの人、家ではさっぱりなのだ。

「うちの鼻、うるさいでえ。特に飯食てる時。俺ここでもそうやけど、そこら中に、飯まき散らしながら食うんや。口いっぱい詰め込んで食うから、あふれてしまうんや。そしたら、鼻が見とって、『ほら落ちた、そこ。また落ちた、ほれ』て、そら一々うるさいで。自分、飯食わんと俺を監視しとるんや」

奥さんにかかるとまるで子ども扱いである。ところが…。

「昔は絶対に鼻と買物には行かなんだ。市場なんかとんでもない。それがこのごろ鼻が強なって、スーパーへついて行かされるんや。買物物を持たせよる。なんぼでも持たせよる。なかでも、ネギが袋から出とるのが俺にはかなん。そんな時に限って、向こうから知った人が来よるんや。俺、知らん顔して、その場へホイと捨てたるんや。鼻があわてて拾とる」

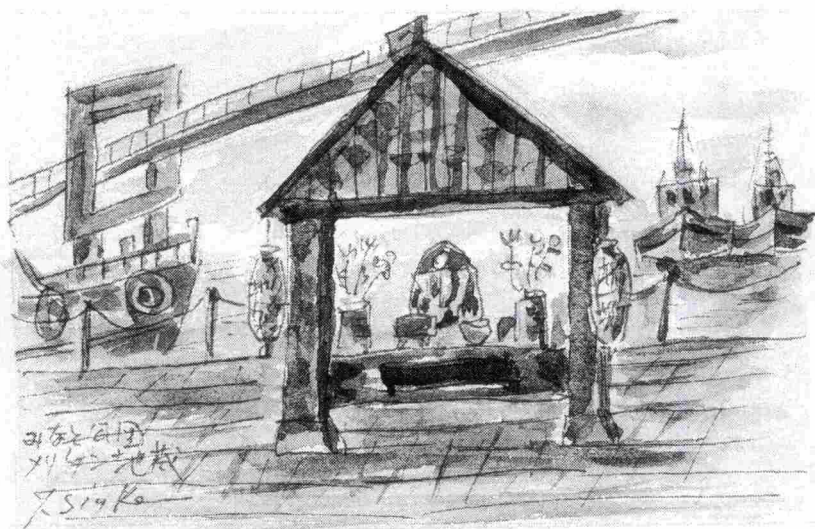
いずし・あかる 43年兵庫県生まれ。「風媒花」「火曜日」同人。兵庫県現代詩協会会員。詩集「コーヒーカップの耳」(編集工房ノア刊)にて、2002年度第31回ブルーメール賞文学部門受賞。

■新連載小説／最終回

神戸はしけの女

岡本真穂

絵・新家保夫



花火

海の事故は当然のように人の命を奪って行った。はしけは特に海の上の居住の地であったせいも、子供達の事故も多く発生。又港で働く労働者の中にも殉職する者も多々いた。

昭和五十年の頃、これらの事故を憂いた人がいる。港湾荷役に従事していた小野米吉という人で、小野は「いかり地蔵」と称して今の新しいウォーターフロントゾーンに祀り所を作ったのである。海の人気者であった小野米吉も、昭和五十七年五月に没している。

そして年月がたち、昭和六十二年五月、神戸を考える会の呼びかけと、市民各位の熱意により、それまで廃材を利用して作られた質素な祠から、現在の様な総チーク材の祠が建立され、「いかり地蔵」から「メリケン地蔵尊」と改名された。メリケン地蔵尊と名づけられたお地蔵さんの祠には、平成三年末、鯉川筋での共同

溝事中に中突堤基部から出土した花隈城の歴史にまつわると見られる五輪塔が安置され、平成七年冬には漂着した観音像も安置された。

平成七年一月、神戸をおそった兵庫県南部地震により、祠周辺の岸壁も全壊、その復旧工事のため祠も一時、三十メートル北の歩道橋脇に仮移転したが、岸壁の復旧完成とともに、平成九年十月、元の位置に復帰したのだった。平成十年十月には長く待ち望まれていた祠の電灯線の引込みも実現し、常夜灯が、お地藏さんを照らすようになり、道を行き交う人も立ち止まり、手を合せる姿も見られるようになった。今では恒例になっている八月下旬の日曜日に、メリケン地藏盆供養祭や精霊流しなどが行われるが、この祠は、神戸の復興と新たな飛躍を願う人達の熱意に支えられて常に護持されている。

とみ達国産住宅の人達も地藏盆に参加したり、時には花を持って地藏様に日頃の無事を願ったりすることもあった。

とみの病気も現状のままであるが、元気だった頃のとみは、大丸などに買物に出かけた帰り道などに立ち寄り地藏様の掃除もした。

とみの病気は一向に治る様子はなく、誰かの手を煩わさなくてはならない日常の中で、とみの住む国産住宅の不便さは、建築基準に合致しているとはいえ、高齢化した人達や身体の不自由なとみにとって悩みの種でもある。一台でもエレベーターがあればという声が、住民の中にある事は事実で、管理人の西山さんにしても、「何度か行政に交渉したのですが」と、自分の老いも思うのか、淋しくいうのが印象的だった。

とみの住む国産住宅は、人の高齢化と建物の老朽化が目立つが、一方震災を経験した神戸は医療産業都市を宣言したり、道路の段差のない広い道などが整備され、湾岸を走る地下鉄道などが神戸の未来を約束する様に静かに変貌している。

「みなと」とは水の門を意味する言葉という。古くからみなとまちとして発展してきた神戸は、人・モノ・情報の交流拠点である。国内はもとより世界の港として歴史を刻んで来た。確かに震災の痛手は韓国や外国に港としての機能を奪われた部分はある。しかし神戸はいつか昔の様に外国船で賑わう日がかならず来るはずである。神戸人の肌には海の香りがしみついているからだ。

北野から 三宮
三宮から 居留地
居留地から 波止場

神戸は海 神戸は山
神戸の戸を 開けると

そこは 異国の オモチヤ箱
サリイが踊る

ニーハオ 赤い中国服

ボンソワール

クーテンターク

リンゴチョココレート

瓦せんべい

きんつば

神戸の戸を閉じよう

ジャズ

ワイン

酒

百万ドルの夜景

竹中 郁

中西 勝

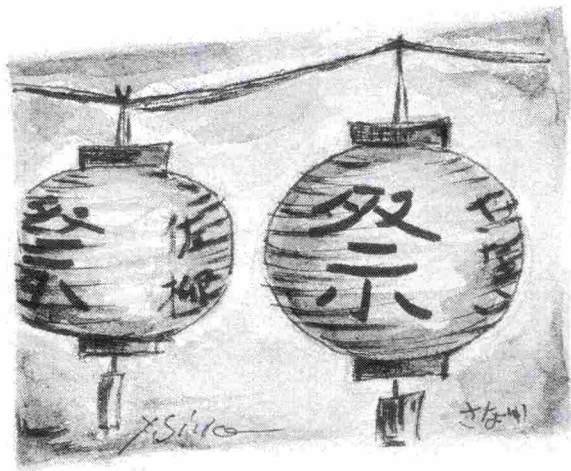
小磯 良平

鳴居 玲

神戸が涙を流す

うれしくて

うれしくて



ポートアイランド

六甲アイランド

兵庫埠頭

新港東埠頭

摩耶埠頭

はしけは消えた

港のバタヤンの帰り船の声はない

木造船も消えた

カメが遊ぶ 小さな白い服が

泳ぐ 船先の景色もない

船の上の モチツキの音もない

ない

ない

ない

新 旧の港に

小さな歴史がある

平凡で

普通で

田舎者で

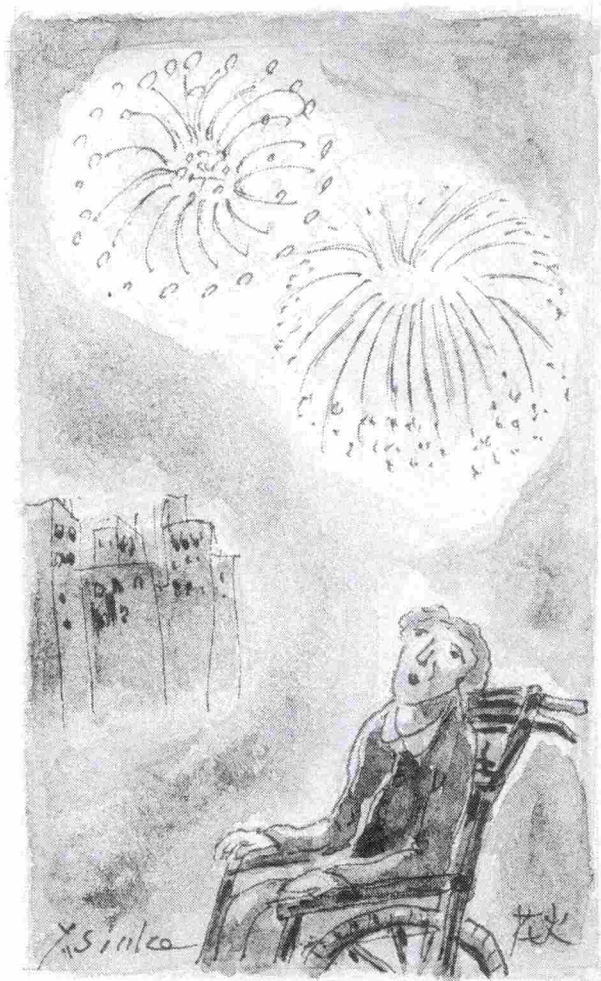
素朴で

働き者で

とみが 生きた

とみが 生きる

大好きな 神戸で



平成十五年神戸の夏、順一はとみの車椅子を押しながら、とみが元気だった頃、花火を見るため場所取をした、とみの大好きな港の埠頭に立っていた。「とみ、佐柳島に帰るか」とみはいった。

「来年も、今年も、この花火を観たいんや。私は神戸が大好きやけん」

ドカン

大きな花火が、二人の影をとらえながら、神戸の海を照らした。

完

※

※

あとがき

この物語は、はしけが盛んであった頃、四国の佐柳島から、若い主人を追って、乳飲み児を抱き、神戸に来た女の一生を書かせていただいた物語です。

主人公のとみは、本名大川とめといい、今も国産住宅に車椅子生活で住まわれている。平凡で仲の良い夫婦、三人の子供も、母の大きな胸に、小さな手を当てながら、安堵と母の優しい目を見あげながら育ったのです。

ゴザ二枚の船底での生活、しかし母の目は、母の愛は子供の目の中にしっかりと焼き付いているのです。

働く女性が増え、出産と同時に保育所に預けられる乳児。働く事はそれぞれ事情があり、それをすべて否定はしません。しかし、乳飲み児は母の目をみつめ、母の胸の暖かさを頬で指で一人でも多く感じてもらいたい。

この物語を書きながら、とみさんの平凡だが母としての役割を見事に生きられたのではないかと思うのでした。一年間、はしけを見つめて過ごしました。

私と共に絵をお描き下さいました新家保夫先生ありがとうございました。

そして一年間はしけ物語りをお読み下さいました読者の皆様ありがとうございました。

佐柳島の皆様ありがとうございました。

平成十五年十二月吉日

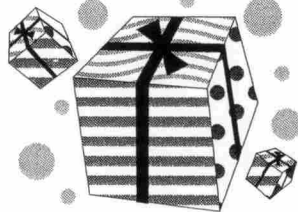
岡本真穂



岡本真穂（右かもと まほ）

詩人、関西文学同人、関西詩人協会会員、
神戸異分野交流会会長。著書「詩面集 花野」「御影」。

プレゼントメイト



■プレゼントメイトへのご応募は...

ハガキ・FAXに、希望するプレゼント名・郵便番号・住所・氏名・年齢・職業・電話番号・今月号の感想を明記の上、下記宛先にお送り下さい。なお、商品の発送をもって発表にかえさせていただきます。応募宛先〒650-0001 神戸市中央区下山手通2-13-3建創ビル401(有)月刊神戸っ子プレゼント係

TEL. 078-331-2246

FAX. 078-331-2795

★神戸市立小磯記念美術館『収蔵作品展Ⅱ』開催

神戸に生まれ、生涯神戸を制作の拠点とした小磯良平画伯の作品のうち、今回は『働く人と家族』をテーマにした収蔵品を、一堂に展示する。この美術展の招待券をペア5組にプレゼント。昭和の洋画家の巨匠の一人に数えられる画伯の油彩や素描など、温かみのある生き生きとした作品の数々にふれてみてはいかが。

■開催期間／12月20日(土)～2月1日(日)

休館日／毎週月曜日(ただし1/12は開館、1/13は休館)・年末年始(12/28～1/4)

開館時間／10時～17時(入館16時30分まで)

交通／JR「住吉駅」・阪神「魚崎駅」のりかえ、六甲ライナー「アイランド北口」下車西へ徒歩すぐ

住所／神戸市東灘区向洋町中5・7
☎078・857・5880

★『あかり』の歴史と文化にふれる、神戸らんぶミュージアム

神戸らんぶミュージアムは、照明文化における貴重な「旧北野らんぶ博物館・赤木コレクション」を受け継ぎ、灯火器の変遷を時代とともに楽しみながら学ぶことのできる博物館。館内では、旧居留地をイメージした「あかりのミュージアム・ウォーク」を散策するように、様々な『あかり』の浪漫が楽しめる。現在開催中の『あかりの広告展』くらしを映す看板・引札』では、元禄期以降、商工業が盛んになるにつれ広がってきた広告類を通し、当時の商人の心意気や庶民の暮らししづりをかいまみることで

できる。このミュージアムへの招待券をペア5組にプレゼント。工夫の凝らされた各展示室を散策気分でお楽しみ下さい。

■開催期間／12月23日(祝)まで

休館日／毎週月曜日(ただし1/12は開館、1/13は休館)

年末年始(12/28～1/4) 開館時間／10時～17時(入館16時30分まで)

住所／神戸市中央区京町80番クリエイト神戸2F・3F
☎078・333・5310

★4000年の歴史絵巻『トルコ三大文明展』

今年「2003年日本におけるトルコ年」として、トルコを日本に紹介するイベントが多く開催されている。『トルコ三大文明展』はその中心に位置づけられ、

トルコの地に花開いたヒッタイト、ビザンツ、オスマンの各帝国とその分明に焦点を当て、それぞれの歴史を物語る貴重な文物の数々をかつてない規模で公開する。特に、世界最大級のエメラルドに彩られた短剣、通称「トブカビの短剣」は日本初公開。偉大な文明が放つ誇り高く美しき輝きは、まさにオスマン帝国の権力と富を象徴する。この展覧会への招待券をペア5組にプレゼント。「文明の十字路」とよばれるにふさわしいトルコの、東と西の人類・文化の融合を感じよう。

■会場／大阪歴史博物館

■開催期間／12月20日(土)～2月16日(月)

休館日／毎週火曜日(ただし12/23は開館、12/24は休館)

年末年始(12/28～1/4) 開館時間／9時30分～17時(入館16時30分まで)

交通／地下鉄谷町線・中央線「谷町4丁目駅」9号・2号出口よりすぐ

住所／大阪市中央区大手前町4丁目1・32
☎06・6946・5728



トブカビのエメラルド入り短剣
(トブカビ宮殿博物館)

愛読者
サロン



★8月号から連載されている向井修二さんの男の気持。1967年の復刻版シリーズなのですが、36年を経た今も十二分に通用する楽しい文章ですね、向井さんがお元氣ならば非現代の目でもって、もう一度書いていただきたいと思います。

(須磨区・西岡肇美)
★各駅停車の神戸歴史ウォークが面白かったです。

(北区・中筋栄一)
★「MUSIC」の出てる「オーパスワン」の演奏は以前いずみホールで聴いてとてもステキでした。今回もぜひ参加します！

(灘区・福井美幸)
★本誌に感銘すること多し。神戸の近況がよくわかって読みやすいです。

(加古川市・内井薫)
【読者の方からのお写真】
★この当時阪神電車のキャッチフレーズは「待たずに乗れる阪神電車」で、一方阪急電車の方は高架になりまして「梅田まで特急30分」

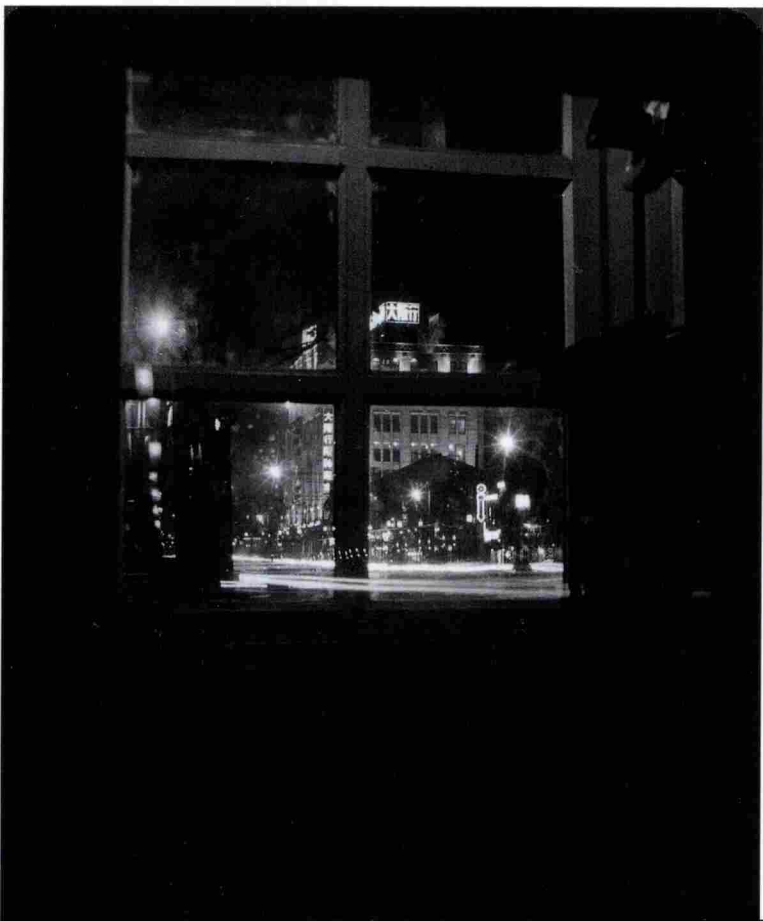
でした。こんなビラが当時の銭湯にも見られました。また、この当時阪神電車の終点は、この写真の後方、今の国際会館の前あたりで、大鉄傘の下、大きい円形のターミナルボックスでした。そこから電車は北へ進み、省線の三ノ宮駅で、右に直角右折して御影の方に

進んでいました。特急や急行はなかったと思います。電話ボックスの中は右側にハンドルがあつてそれを回します。そして受話器は左手にかかっていました。私の古い神戸でのクリスマスの懐かしい記憶は北野町の、人が殆ど行かなかつた一番高い上の方の、今の

展望台」の近くの一軒家の異人館のドアに、リースが静かに賭けてあったのをそっと目にしたことでした。何一つ音のしない山の上のクリスマスの夕暮れで、そのリースが今もはっきり目にかびます。

(加西市・白水誠三)

滝道 クリスマス 哀愁／昭和7年12月



神戸っ子は 左記の書店で



- 神戸市東灘区
東灘みかげブック
ブックフォーラム豊岡本店
本店ブックス
本山堂書店
ジュンク堂書店住吉店
甲南堂
●神戸市灘区
灘五文館
阪急B.F.六甲店
ブックスキョスク六甲道店
●神戸市中央区
アサヒヤボーアイ店
ブックスフジヤ
元町五文館
ブックマーケット神戸
神戸デンパイ
●神戸市兵庫区
ブックス花咲く街角川店
バルネット神鉄ビル店
●神戸市長田区
アイヨ堂
●神戸市東灘区
喜久屋書店ジョイプラザ店
サンヨイ書房西代店
フェニックス
さけらう堂新長田ビル店
いきりり館
●神戸市須磨区
新文堂
流泉書房パチオ店
キヤウブックスみつわ
博文堂
●神戸市垂水区
新文堂書水店
明舞書店
●神戸市北区
文進堂書店
●神戸市北区
アミコ藤原台店
スタミコ藤原台店
宮崎書店神戸北町店
スタミコ商会
ジュンク堂書店学園都市店
ジュンク堂書店西神駅前店
ブックフォーラムセリオ店
伊川谷タムラ
●芦屋市
天久書店
芦屋ジュンク堂書店
芦屋宝鑑本店
●三和書局
●三和書局
しゅんかん堂なにわ支店
●西宮市
宮脇書店西宮店
ジュンク堂書店西宮店
- 宝塚市
キヤウ書店逆瀬川店
●豊岡市
ブックフォーラムジュンク堂豊岡
●三田市
あか山房ウツイタウン店
小山書局
●姫路市
ブックロード
井上書林
宮本書店
ジュンク堂サンヨイ
ジュンク堂姫路駅店
●明石市
嵐山堂本店
B.O.K.S.松中リオビル店
喜久屋書店明石店
●三木市
ブックスウィング三木
●加古川市
喜久屋書店加古川店
ブックスアルパーク
ブックストアかいや加川いしもり店
●小野市
ブックスインク小野
●西宮市
アンズ
●津名郡 宮町
宮脇書店津名一宮店
●津名郡 名取町
ブックスみなまこ
●東灘区 千代田区
三信書店
●ジュンク堂 プレスセンター
●東京都港区 新番街店
●東京都渋谷区 番町店
●東京都新宿区
ブックライナー
●東京都豊島区
なかい
●日高市
ジュンク堂池袋本店
●エブネ
エブネネットワーク
●大阪市中央区
ジュンク堂書店なんば店
●大阪市東淀川区 大坂本店
●大阪市阿倍野区
樋口書局
●柏原市
ブックフォーラム柏原店
●八幡市
油竹書局
●舞鶴市
B.O.K.S.フレンド
●高松市
宮脇書店ルチャペー
●福岡市
ジュンク堂書店福岡店
●鹿児島市
ジュンク堂書店鹿児島店

編集後記

★菊薫る十一月七日。相楽園会館で、矢田立郎神戸市長から「神戸市文化功労賞」をいただいた。一月十日に創刊から労苦を共にした兄・康夫が五百号の発行を見ず他界。リトルマガジンに再生して五〇九号。嬉しい嬉しい嬉しい愛賞！兄の長女・華子と出席した。これも神戸っ子を支えて下さった皆様と、編集部みんなの協力の賜物と感謝するのみです。神戸復興十年に向って、さらなる創造と努力を。：。

★街中でMKTクシーを見かける頻度が高い。クシードライバーの地位向上を掲げ、「陸のパイロット」を指すと明言する青木専務の熱意もさることながら、徹底した社員教育が質の高いサービスを生み出す。不況の中で商魂のたくましさを見た。(高橋直人)

★私が愛する声優・田中真弓さんが子供のために語りかける「親子で聴くクラシックコンサート」に滋賀まで行った。こんなイベントぜひ神戸でも。(鳥羽朗子)

★初詣の誌面を見るともう年の瀬だなと感じます。(大原宇勉)



★寒い季節がやってきました。街にはイルミネーションが光り、神戸らしい雰囲気漂っています。心のあたたまるそんな街の香りに包まれた。(川上豪)

★今月で最終回となった連載ものいかがでしたでしょうか？私が新連載に望むことはたったひとつ。原稿は締切までに、はよ書いて下さい。ただそれだけです。(山本牧)

代表取締役編集長 / 小泉美喜子
編集・営業 / 高橋直人
大原宇勉 川上豪
鳥羽朗子 山本牧
福田美由紀
経理 / 小林昌夫

月刊神戸っ子 No.510
★発行 / 2003年12月1日
★発行所 / 月刊神戸っ子編集部
〒650-0011
神戸市中央区下山手通2-13-3
建創ビル4階
TEL.078(331)2246(代)
FAX.078(331)2795
kobeco@crux.ocn.ne.jp
★定価：本体477円+税 送料100円